

令和5年度第8回 感染症発生動向調査協議会
議事要旨

1 日 時 令和5年11月15日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)

澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)

大野 元(岐阜県産婦人科医会 理事)

オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)

事 務 局 : 八代 英彦(感染症対策推進課 管理監)

可知 正行(感染症対策推進課 主任技師)

今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)

岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:馬場委員(大西委員が病欠のため))

(1) 前月の感染症発生動向について

(2) 検討すべき課題について

(3) 情報提供(月番委員専門分野から)

(4) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○インフルエンザ流行について

(事務局から)

複数の保健所管内で第44週(10/30～11/5)の患者報告数が定点当たり30人を超えたため、「岐阜県インフルエンザ警報等発表要領に定める基準」により、岐阜県は11月9日にインフルエンザ警報を発表しました。引続きその発生動向に注意し、逐次情報提供につとめます。

(委員から)

- ・今シーズンは、年内にピークへ達する勢いで患者数が増加しており、例年と比べて流行時期が早い。
- ・医療現場では子供用のタミフルの供給が不足し、厳しい状況になりつつあるとの情報があります。
- ・例年と比べ時期がズレているためか、インフルエンザへの注意を喚起する報道等が例年に比べて少ないように思います。